



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	司ゴム電材株式会社袋井舗井工場新築工事	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点		取組み度			評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.2	/5				がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.6	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5				ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		<b>2.2</b>	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 工場施設のため、作業効率を重視した設計とした。 建築材料はF☆☆☆☆を使用しシックハウス基準値をクリアしている。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 外構に芝生を施工し駐車スペースも一部芝生併用とし緑化に努めている。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 工場施設のため、作業効率を重視した。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 建築基準法に準じた仕様としている。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 敷地内に駐輪場、駐車場を確保。 雨水排水に関しては開発許可に適合している。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		<b>2.6</b>	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 建築基準法に準じた仕様としている。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 事務室は事務機の配置等、余裕のある空間としている。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		<b>3.0</b>	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 外構に芝生を施工し駐車スペースも一部芝生併用とし緑化に努めている。</p>	Q-3 3 3.1 ⑲	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
	<p>■サービス性能対策 (⑲機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑲空間のゆとり) 事務室は事務機の配置等、余裕のある空間としている。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		<b>2.1</b>	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) 袋井市景観条例に準じた仕様としている。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/㉒温熱環境悪化の改善) 敷地内に駐輪場、駐車場を確保。 雨水排水に関しては開発許可に適合している。</p>	Q-3 1 ⑲ 2 ⑲ 3 3.2 ⑲	⑲ 生物環境の保全と創出 ⑲ まちなみ景観への配慮 ⑲ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑲	⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 温熱環境悪化の改善	

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	司ゴム電材株式会社様袋井諸井工	階数	地上2F
建設地	静岡県袋井市諸井字向イ3453番 他	構造	S造
用途地域	地域指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,205 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年9月2日
敷地面積	9,090 m <sup>2</sup>	作成者	新貝真
建築面積	5,392 m <sup>2</sup>	確認日	2022年9月2日
延床面積	5,728 m <sup>2</sup>	確認者	新貝真



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 97%

③ 上記+②以外の: 97%

④ 上記+: 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。敷地内緑地と駐車場を確保する為に駐車場を芝生併用とし、緑地環境に配慮している。作業効率を重視しつつスペースを十分にとれる設計とした。	0	
<b>Q1 室内環境</b> 工場施設のため、作業効率を重視した設計とした。建築材料はF☆☆☆☆を使用しシックハウス基準値をクリアしている。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室は事務機の配置等、余裕のある空間としている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構に芝生を施工し駐車スペースも一部芝生併用とし緑化に努めている。
<b>LR1 エネルギー</b> 工場施設のため、作業効率を重視した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 建築基準法に準じた仕様としている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地内に駐輪場、駐車場を確保。雨水排水に関しては開発許可に適合している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される